

対馬市 トピック



第6回 対馬初午祭

300mの直線コースを
8頭の対州馬が疾走

10月21日、第6回対馬初午祭（同実行委員会主催）が上県町瀬田の目保呂ダム馬事公園で開催され、対州馬によるレース「馬跳ばせ」が約1500人の観客を沸かせました。



記念撮影コーナー
法被を着て対州馬の背に乗る子ども

「馬跳ばせ」は、上県町瀬田地区に明治初期より伝わる伝統行事で、旧暦6月の午の日に男児の健やかな成長を願って行われていた「初午祭」の余興として行われていました。対州馬の減少により昭和30年代半ばに途絶えていました。そこで、対州馬の復興と伝統行事の復活を願う地元住民の協力によって平成14年におよそ40年ぶりに復活しました。今回のレースには、島内で飼育されている対州馬8頭が出走。土煙を上げて豪快に走る対州馬に、観客から大きな声援が送られていました。また、レース以外では、乗馬体験コーナーや子どもに法被を着せての記念撮影コーナーに人気が集まっていました。

隠れた対馬の名所を巡る

つしま HOT SPOT

石屋根



歴史的・文化的遺産が数多く残っている対馬には、全国各地どこを探してもここしかない建築物があります。

対馬では昔から石文化が根付いており、それを代表するものが「石屋根」です。石屋根は高床式倉庫で、米や麦などの食料・衣類・日用品等をそれぞれの区画に格納しています。石屋根とした理由は、農民に瓦葺が認められなかったためと考えられています。石屋根は人家に葺かれた例はなく倉に使用するのが主でした。屋根に敷いている石は島内産の加工しやすい頁岩で、石板は大き

いもので畳一枚ほどもあり、棟に何段にも積み重ねられています。

石屋根は冬季に吹き付ける強い偏西風による倒壊の防止、火災や雨露から食料などを守るための知恵と伝えられており、母屋から離れたところに軒を連ねている場合が多く見られます。これは、防火上の配慮からです。

いつ頃から造られていたか不明ですが、1811年最後の朝鮮通信使が対馬に来た時、対馬府中に来た佐賀藩多久の学者が書いた「津島日記」に挿絵入りで記されています。

以前は、全島的に石屋根は造られていましたが、現在は厳原町西海岸を中心にわずかに残るだけになっています。

【お知らせ】

観光交流課では、みなさんからの情報をお待ちしています。「こんなところがあるよ」などの情報がありましたら、ドシンドシお寄せください。

対馬市役所観光交流課

0920(53)6111

FAX 0920(53)6122

メールアドレス

asightseeing@city_tsushima.jp